

令和5年度 滝川市道徳教育推進事業 実践報告書

「自分のよりよい生き方についての 考えを深める道徳科」

～主体的・協働的な学習を通して～



滝川市教育委員会

滝川市道徳教育研究会議

発 刊 に あ た っ て

本年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行となり、感染症との戦いに一つの節目を迎えた中、様々な教育活動の充実に努められてきたことに感謝申し上げます。

さて、「特別の教科 道徳」がスタートし、数年が経とうとしています。各学校においては、日々、道徳の時間の充実に向け、質の高い多様な指導方法等を取り入れる等、研究に取り組んでいることと思います。

本市においては、子どもたちの豊かな心の育成を図るため、平成19年度から2年間は文部科学省の指定を受け、平成21年度からは、市独自に「道徳教育推進事業」を立ち上げて実践的な研究を推進してきたところです。

令和3年度からは、これまでの研究成果を引き続き「深める、広げる」とともに本市の道徳教育の一層の充実を図るため、5か年計画で、道徳教育の要となる「道徳科の授業」に係る実践研究を推進してまいりました。本年度は、5か年研究の3年次となり、10月には滝川市道徳教育推進事業研修会を開催し、外部講師として岐阜聖徳学園大学の山田貞二准教授を招聘いたしました。当日は、講師による示範授業、講演に加え、2名の研究員の先生による特設授業についても市内の多くの教職員に直接参観していただくことができ、今回の研修会を通して、「道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問」や「子どもの自己評価と教師による評価」について理解を深めることができました。

本報告書には、研究主題に基づいた研究理論・授業実践等、研究の取組の成果が掲載されております。各学校において本書が有効に活用され、子どもたちに、自分のよりよい生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心が一層醸成されることを願っております。

終わりになりますが、本研究事業の推進にあたり、ご協力いただきました研究員の先生方、関係各位に心からお礼を申しあげ、発刊にあたってのご挨拶といたします。

目 次

発刊にあたって

第1章 研究概要

I. 研究主題及び主題設定の理由	2
II. 目指す子ども像	
III. 研究仮説	
IV. 研究内容	
V. 研究の全体構造図	3
VI. 事業及び研究の進め方	3
VII. 資料（参考）	5
VIII. 令和5年度 滝川市道徳教育研究会議 名簿	

第2章 研究理論

I. 道徳科授業の質の向上	7
II. 道徳科における評価の在り方	11
III. 保護者や地域の人材（教材）を活用した指導	14

第3章 令和5年度授業実践

・滝川市立東小学校 小松連史 教諭	17
・滝川市立明苑中学校 岡田侑也 教諭	21
・各授業実践の反省 ～各研究協議より～	28

第4章 成果と課題

・令和5年度 滝川市道徳教育推進事業 研究の成果と課題	35
-----------------------------	----

参考・引用文献	41
---------	----

研究概要

I 研究主題及び主題設定の理由

1 研究主題

**「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」
～主体的・協働的な学習を通して～**

2 研究主題設定の理由

グローバル化や情報化の進展など様々な要因により大きく変化し続ける現代社会において、個人や社会の多様性を尊重しつつ、幅広い知識・教養と柔軟な思考力に基づいて新しい価値を創造したり、他者と協働したりする力が求められている。

とりわけ、道徳科においては、主体的・協働的な学習の中で、多様な道徳的価値観に触れ、異なる考えや道徳的価値観を肯定的に受け入れ、自分の考えを更新し、自分のよりよい生き方を見つめていくことが求められる。

その具現化のためには、「心情理解にとどまったり、わかり切ったことを考えたりする授業」から「自己のよりよい生き方についての考えを深める授業」、つまり「考え、議論する道徳」への転換が重要となってくる。

そこで、本研究では、研究主題を「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」と設定し、児童生徒が道徳的価値を自分ごととして考え、他者と議論することを通して自分のよりよい生き方についての考えを深めていくことができる道徳科を研究することとした。

II 目指す子ども像

本研究では、児童生徒に、道徳的価値の理解を自分との関わりで問い直し、多面的・多角的に考え、よりよい生き方について考えを深めようとする見方・考え方を育成する観点から、目指す子ども像を、

「自分のよりよい生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする子ども」

と設定する。

III 研究仮説

上記の「目指す子ども像」を踏まえ、研究仮説を次のように設定した。

「道徳科の授業」において主題に対する問題意識を高め、道徳的価値を自分との関わりで考えられるような発問や言語活動を工夫するとともに、保護者や地域の人材(教材)を活用することにより、自分のよりよい生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心を育むことができるであろう。

IV 研究内容

児童生徒に「自分の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心」を育むためには、道徳教育の要となる道徳科の授業において、主体的・協働的な学習活動を展開することが必要である。

そのためには、児童生徒の思考を深めたり、広げたりする指導過程の充実を図るとともに、児童生徒・教員・保護者そして地域の人材(教材)や体験活動を意図的・計画的に教育活動に位置づけることが大切である。

そこで、研究の対象を「道徳科の授業」とし、研究内容を次のように設定した。

- ①道徳科授業の質の向上
- ②道徳科における評価の在り方
- ③保護者や地域の人材(教材)を活用した指導の工夫

V 研究の全体構造図

【目指す子ども像】

「自分のよりよい生き方についての考えを深め、
主体的に行動しようとする子ども」

【研究主題】

「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」
～主体的・協働的な学習を通して～

【研究仮説】

「道徳科の授業」において主題に対する問題意識を高め、道徳的価値を自分との関わりで考えられるような発問や言語活動を工夫するとともに、保護者や地域の人材(教材)を活用することにより、自分の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心を育むことができるであろう。

【研究内容】

道徳科授業の
質の向上

道徳科における
評価の在り方

保護者や地域の人材
(教材)を活用した指導

VI 事業及び研究の進め方

1 事業名

滝川市道徳教育推進事業（令和3年度～令和7年度） ※5か年研究3年次

2 事業のねらい

本市が推進してきた「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業（平成19～20年度）」・「滝川市道徳教育推進事業（平成21～令和2年度）」の成果を「広げる・深める」ことを通して、本市における道徳教育の更なる充実に資することをねらいとする。

- (1) 道徳科授業の質の向上
 - ・自分のよりよい生き方についての自覚を深める指導の工夫（教材の効果的活用を含む）
- (2) 道徳科における評価の在り方
 - ・子どもによる自己評価と教師による評価
- (3) 保護者や地域の人材(教材)を活用した指導
 - ・保護者と連携した「子どもの心を耕す」取組の充実
 - ・地域の教育力の積極的な活用（「はーとふる」「きたものがたり」の活用を含む）
- (4) 研究成果の還流・発信
 - ・実践発表会の実施
 - ・実践資料の各学校への配布と滝川市教育委員会 HP 掲載による道徳科授業の実践内容に係る保護者や地域に向けた発信

3 事業及び研究の進め方

- (1) 滝川市道徳教育研究会議の設置

本事業における研究を推進するために、「滝川市道徳教育研究会議」（以下、研究会議）を設置する。
- (2) 研究会議は、市内小・中学校教員9名（小学校6名、中学校3名）と事務局（教育委員会職員）により構成される「滝川市道徳教育研究会議」を設置し、研究を推進する。
- (3) 研究会議の活動
 - ①道徳科に係る理論研究を行う。
 - ②授業実践を通して研究仮説の検証を図る。
 - ③5年間で9校の研究授業を実施する。
※令和3年度から2校ずつ
 - ④実践発表会を開催して研究成果を還流・発信する。また、実践資料を作成し、各学校に配布するとともに、滝川市教育委員会HPにも掲載する。

4 令和5年度研究推進の重点（※令和4年度の成果と課題より）

- (1) 『主体的・協働的』な学習の姿を明らかにする「発問」の検討
 - ・児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問
- (2) 道徳科における評価の在り方
 - ・子どもによる自己評価と教師による評価
- (3) 学校、家庭、地域連携の要となる「特別の教科 道徳」の充実
 - ・「学級通信」や「教科書」等を活用した双方向の情報・意見交流
 - ・外部講師となり得る人材のリスト化(外部講師バンクの作成)

5 児童生徒の変容を把握するための手だて

- ・滝川市道徳教育研究会議作成「道徳アンケート」の実施
- ・計画的な児童生徒の観察
- ・各校の自己点検、自己評価
- ・感想文、ワークシート
- ・児童生徒に対するアンケート
- ・保護者へのアンケート
- ・自校内はもとより、学校間、校種間を越えた教師の話し合い など

6 本事業における道徳科の授業公開の実施計画

(1) 研究会議による公開授業研究

各研究員が研究理論に基づき公開研究授業を行うことで、研究主題の具現化を図る。

(2) コスモスデー地域一斉参観日における道徳科の授業公開（予定）

期 日：令和5年10月27日（金） 滝川市地域一斉参観日

市民に向け、市の広報で地域一斉参観日の開催を知らせ、広く授業を公開する。

7 その他

本研究では、小学校、中学校における「特別の教科 道徳」の実施に伴う情報の提供を行う。

VII 資料(参考)

- 1 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編（文部科学省）
- 2 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編（文部科学省）
- 3 平成29年度 小(中)学校教育課程編成の手引（北海道教育庁学校教育局義務教育課）
- 4 令和2年度 小(中)学校教育課程編成の手引（北海道教育庁学校教育局義務教育課）
- 5 令和3年度 小(中)学校教育課程編成の手引（北海道教育庁学校教育局義務教育課）
- 6 「特別の教科 道徳」の充実に向けて（北海道教育庁学校教育局義務教育課）
- 7 「特別の教科 道徳」の評価について（北海道教育庁学校教育局義務教育課）
- 8 新学習指導要領を踏まえた道徳キーワード（光村図書出版株式会社）
- 9 道徳科「深い学び」のための内容項目ハンドブック（日本文教出版）
- 10 とうとくのひろば（日本文教出版）

VIII 令和5年度 滝川市道徳教育研究会議 名簿

<研究員>

滝川第一小学校	藤 田 彩 乃	東小学校	小 松 連 史
滝川第二小学校	尾 崎 真 紀	江陵中学校	川 畑 摩 沙 子
滝川第三小学校	神 野 圭 佑	明苑中学校	岡 田 侑 也
西小学校	吉 野 柊 平	開西中学校	鈴 木 敏 之
江部乙小学校	伊 東 直 子		

<運営者>

滝川市教育委員会 教育長	田 中 嘉 樹
滝川市教育委員会 教育部指導参事	福 田 善 之
滝川市教育委員会 教育総務課主査	小 西 和 真
滝川市教育委員会 教育総務課主事	関 佑 斗
滝川市教育委員会 教育総務課主事	大 西 力 斗

研究理論

I. 道徳科授業の質の向上～『主体的・協働的』な学習の姿を明らかにする「発問」～

①児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問

児童生徒に自己の生き方についての考えを深め、他者とよりよい関係を築きながら行動する心をはぐくむためには、道徳科の授業において児童生徒が他者との関わりを通して、道徳的価値を自分ごととして捉えながら思考する学習活動を展開することが大切である。そうした学習活動を促す上で、「発問」の質を向上させることは欠かせない要素といえる。

ア.（思考の）土台作りの発問

- ・ねらいとする道徳的価値に関わり学習テーマを設定する（情報を共有する）ための発問

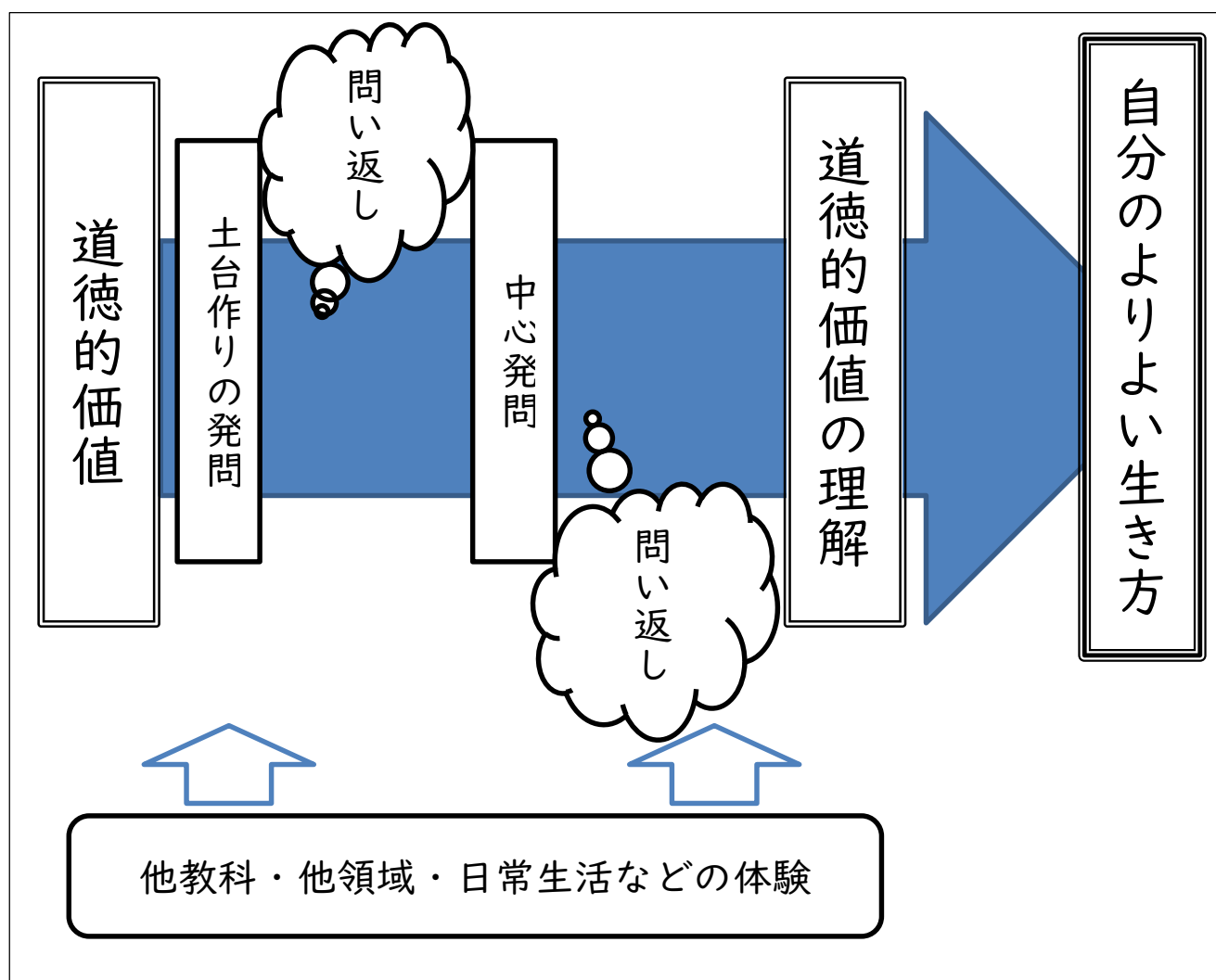
イ. 中心発問

- ・ねらいとする道徳的価値に迫るために「決め手」となる発問

ウ. 問い返し

- ・中心発問に向かうための発問
- ・思考を深めるための発問

【1 単位時間の授業における発問のイメージ】



【令和5年度実践例】東小学校

発問の検討により、児童が伝え合う機会や思考する機会を増やすことができた。また、授業の流れに必要な発問の検討を行い、具体的な課題が明確になった。考えを拡散する発問（中心発問）から道徳的価値へと収束するための補助発問の検討や深い学びへとつながる発問の工夫が課題である。



【令和5年度実践例】明苑中学校

生徒が本文を読んだ感想から課題の自己決定をさせ、それを中心発問とした。そのことが、生徒自身が自分事として考えることにつながり、話し合いや交流に積極的に参加することができた。また、発問する祭、教師の指名ではなく、子どもたちだけで探究的に話し合い活動を行えるようするために「コミュニティボール」を使用した。



参考（令和2年度までの実践より）

1. 児童生徒の思考を深める発問の工夫

（1）学習指導過程の特質に応じた発問の工夫

児童生徒の道徳的価値の理解を基に、道徳性を養うためには、教材の道徳的価値を自らの生き方と関連づけて、考えさせることが必要である。そのためには、学習指導過程の特質を踏まえた教材の活用と合わせた発問の工夫が大切である。

導 入

＜ねらいとする道徳的価値への方向付けの段階＞

- ・道徳的価値に意識を向ける。
- ・主題に対する興味や関心を高める。
- ・学習に向かう雰囲気をつくる。

【 留 意 点 】

- ・道徳的価値が自分とかかわりがあるという意識をもたせる。
- ・考えるための視点をもたせる。

○教材提示の工夫

- ・アンケート調査の結果の提示
- ・絵画、写真、実物
- ・音声や音楽
- ・新聞記事や作文、詩
- ・地域素材、実験観察 等

- ・興味、関心を喚起させる発問
- ・資料に関する発問や説明
- ・体験を振り返らせる発問
- ・自分を振り返らせる発問 など

展開

＜中心的な教材によって道徳的価値についての自覚を深める段階＞

- ・教材の中の登場人物を通して、道徳的価値を追求し、把握する。
- ・多様な考え方、感じ方に出会う。
- ・自分の生活、生き方、在り方を振り返る。

【留意点】

- ・多様な考え方、感じ方を引き出すための発問を行う。
- ・登場人物に同化させ、自分の考え方や感じ方を表現できるようにする。
- ・自分自身を自覚させるようにする。

○教材提示の工夫

- ・読み物教材の読み聞かせ
(スライド等での提示)
- ・教材の分割提示
- ・教材の繰り返し提示
- ・VTRの活用 など

○思考を深める工夫

- ・自分の考えを書く活動
- ・ペアでの対話
- ・小集団での話し合い
- ・座席配置の工夫
- ・スムーズな思考を促す板書の工夫 など

- ・教材中の事実や場面、状況を問う発問
- ・登場人物や場面についての感想、判断、意見などを問う発問
- ・児童生徒の発言や反応を生かした発問
- ・思考に揺さぶりをかける発問
- ・人物の心情に迫る発問 など

終末

＜ねらいとする道徳的価値に対する考えや思いをまとめたり、今後につないだりする段階＞

- ・道徳的価値を確かめ、整理し、まとめる。

○終末の工夫

- ・感想の発表
- ・教師の説話
- ・書く活動
- ・補助教材の提示 など

【留意点】

- ・望ましい行為への決意表明などは行わないようにする。
- ・児童一人一人が、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき確かめることができるような工夫が必要である。

- ・今日の授業についての感想を問う発問
- ・自己の変容や気づきについて問う発問
- ・実践への意欲化を図る発問 など

(2)「展開」における教材の魅力を引き出す発問の工夫

展開において、児童生徒の思考に揺さぶりをかけたり、人物の心情に迫らせ、教材に含まれている道徳的価値に気づかせたりするためには、教師の発問が重要であり、次の点に留意して発問を構成することが大切である。

- ① 教材に回答が記述してあることを聞くだけの発問構成をさける。中心発問はねらいとする道徳的価値について考える切り口に関わるものとして設定する。
- ② 行動の仕方だけを考える発問はさけ、行動の根拠となる心の在り方に関する発問を設定する。
- ③ 読み物教材において、教材中の副詞や副詞句に留意して発問を構成する。行動は動詞で表現されるが、内面的な心の動きを表現するのは副詞や副詞句である。

例) 下線の部分に注目して、ねらいにせまる発問をする

・・・夕焼けの光の中で、祖母の背中が幾分小さくなったように見えた。

発問「祖母の背中が『幾分小さくなったように』見えたのは、主人公の心にどのような思いがあったためだろう？」

道徳的価値の自覚を深める「展開」における発問例

1 展開前段～中心教材を通して価値を追求させる段階～	
ア 道徳的心情を問う発問	「～の場面での主人公は、どんな気持ちですか？」
	「～の時、主人公はどう感じましたか？」
	「主人公の心は、どうなりましたか？」
イ 道徳的判断力を問う発問	「主人公は、そのことをどう考えましたか？」
	「主人公は、どんなことがわかりましたか？」
	「主人公は、どちらを選ぼうとしたと思いますか？」
ウ 道徳的態度を問う発問	「主人公は、どんな生活をめざしましたか？」
	「主人公は、どんなことを心がけていますか？」
2 展開後段～価値を主体的に自覚させる段階	
ア 欠けていた面に目を向けさせる発問	「今までの自分の～に対する考え方で足りなかったと思うことはありますか？」
イ 直接経験から学ばせる発問	「～したとき、自分も悩んだり、迷ったりしたことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
ウ 間接経験から学ばせる発問	「～について、今までに人から聞いたり、本で読んだりしたことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
エ プラスやマイナスの経験を引き出す発問	「～について、今までにできたことや、できなかったことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
オ 主人公と比較して内省させる発問	「主人公と自分を比べて、違ったことや、新しく気が付いたことがありますか？」
カ 先人の行いから学ぶ発問	「～から私たちが学ぶことは、どんなことですか？また、それを生かすには、どんな心がけが大切だと思いますか？」

Ⅱ. 道徳科における評価の在り方

①子どもによる自己評価と教師による評価

子ども自身による評価、子ども同士による評価、教師による評価等、様々な方法で、子どもの自己評価を促し、学びを意味付けしたり、学んだことを自分の生活や行動につなげたりすることが重要である。

評価する対象は、学んだ内容、学び方、学びの道筋等、自分の学びについての様々な事柄が考えられる。

このように、評価に係る方法（どのように）や対象（何を）、タイミング（いつ、どの場面では）は様々であるが、子どもの発達段階や進捗状況に応じて、教師は、目的や意図をもって、それらを取捨選択したり、組み合わせたりしながら子どもによる自己評価の活動場面や教師による評価（見取り）※の場面を設定する。

※教師による評価（見取り）

【評価基準】

ア. 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか

例）・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え考えようとしているか。

・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか。

・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしているか。

イ. 道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めているか

例）・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか。

・道徳的な問題に対して、自分の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めているか。

・道徳的価値を実現する難しさを自分事として捉え、考えようとしているか。



【令和5年度実践例】東小学校

ワークシートの活用により児童生徒の自己評価や指導者側の見取りにつながった。また、発言が苦手な生徒や少数派の意見を拾うことができた。授業の最後に今後の活動を考えることで、児童の自己評価や自分の考えの変化につながった。授業者が自身の授業の評価を行うこともできた。

【令和5年度実践例】明苑中学校

心の数直線やワークシートの活用により児童生徒の自己評価や指導者側の見取りにつながった。心の数直線を用いることで、児童生徒の心の変容を可視化でき、ワークシートに記録することで、評価への活用につながった。



参考（令和2年度までの実践より）

1. 道徳科における言語活動の充実

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけではなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳科の授業においてもその言葉を生かした教育についての充実を図ることが大切である。

（1）道徳科の授業における言葉

道徳科の学習では、中心的な教材を活用し、児童の体験や教材に対する感じ方や考え方を交えながら話し合いを深めることが学習の中心となることが多い。その意味からも、道徳科の授業における言葉の役割はきわめて大きい。

国語科では言葉にかかわる基本的な能力が培われるが、道徳科の授業では、このような能力を基本に、教材や体験などから感じたことや考えたことをまとめ、発表し合ったり、討論や討議などにより意見の異なる考え方に接し、協働的に議論したり意見をまとめたりする。

具体的には、

- 教材の内容や登場人物の気持ちや行為の動機などを考える。
- 友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたり、話し合ったり書いたりする。
- 学校内外での様々な体験を通して感じ、考えたことを、道徳科の授業において言葉を用いて交流したりする。

このような活動の中で、国語科等で培った言葉の能力が生かされ、一層高められていく。

したがって、道徳科の授業においては、このような言葉の能力を総動員させて学習に取り組ませることが、ねらいを達成する上で重要である。

（2）自分の考えを基に書いたり話し合ったりする（表現する）機会の充実

話し合いは道徳科の授業によく用いられる指導方法であるが、話し合いを深めるためには、児童生徒一人一人に自分の考えをもたせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要である。

ア 自分の考えを明確にさせるための書く活動

教材から感じた自分の思いや考えを、自己の生活、体験、知的経験等に引き寄せて明らかにするためには、「書く」という活動が大変重要である。

書く活動により、児童生徒が自ら考えを深めたり、あいまいであった考えを整理したり

する機会となる。

したがって道徳科の授業においては、自分の考えを明確にさせるための書く活動に必要な時間を十分に確保することが大切である。

また、書く活動により、児童生徒の感じ方や考え方をとらえ、個別指導を進める重要な機会にもなる。更に、1冊に綴じられた「道徳ノート」などを活用することによって、児童生徒の学習を継続的に深めるとともに、その変容を見取ることが可能となる。

イ 個々の考えを広げ、深めるための話し合い活動の工夫

道徳科の授業において、自分の思いや考えをより多面的にとらえたり、新たな考えに出会い深化させたり、自己の葛藤の中から新たな価値観を見いだしたりしていくためには、話し合い活動が重要な役割を果たす。

話し合い活動を深めるためには、意見を出し合う、まとめる、比較する等の目的に応じた場の設定等を工夫することが大切である。具体的には、

- ・児童生徒同士の顔が見えるような座席配置を工夫する。
 - ・グループやペアによる話し合いを取り入れる。(話す機会が増え、多くの発言を引き出すことができる)
 - ・同じ考えをもつ子ども同士が集まるように座席の移動を行い、一人一人の立場を明確にして話し合う。
- などの工夫が考えられる。

道徳科の授業における話し合い活動は、友達との話し合いにより自分なりの思いや考えが深まり、道徳的価値の自覚につなげていくことが大切である。そのためには、学級の中に全ての意見を受け入れる温かい風土が確立されていることが前提となる。

2. 道徳科の授業における「書く活動」「話す活動」の役割とねらい

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけではなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳科の授業においてもその言葉を生かした教育についての充実を図ることが大切である。

(1)「書く活動」の役割とねらい

書くことは、教材との出会いで生じた自身の思いや考えを深めたり、整理したりすることにつながる。また、書く際には、論理的な思考力や適切な判断力が求められ、それらの能力の育成にもつながる。そして、書くという自己を表現する活動によって、自分の考えや立場を明確にすることもできる。そして、書いた内容は周囲の人たちと共有し、共通のものとすることもできる。

本研究では、これらを「書く活動」の役割・ねらいとおさえる。

(2)「話す活動」の役割とねらい

話すことには、情報伝達の役割がある。また、他者に対して、自己についての理解をうながすねらいもある。そして、伝達や交流によってよりよい考えを生み出すという意味合いもある。

本研究では、これらを「話す活動」の役割・ねらいとおさえる。

◆「書く活動」の役割とねらい

- ①自らの考えを深めたり、整理したりする。
- ②論理的な思考力や適切な判断力を育成する。
- ③自分の考えや立場を明確にする。
- ④周囲の人たちと共有し、共通のものとする。

◆「話す活動」の役割・ねらい

- ①情報伝達のねらいがある。
- ②他者に対して、自己について理解をうながす。
- ③伝達や交流によってよりよい考えを生みだす。

「書く活動」と「話す活動」は、いずれも主として言語による表現活動である。前者は文字言語によって、後者は音声言語によって行われる。

学級で話し合うとき、事前に自分の考えなどを一人ひとりに書かせる。このことは、自分の考えを持つ機会になると同時に、「話す活動」に参加するための前提となる。

また、子どもたちは互いに話すことによって、違った考えや見方を知ることができ、新たな知識を習得することができる。この活動を通し、初めに考えたことが、その後に修正される可能性が生じてくる。

話したあとに改めて「書く活動」を組み入れることにより、これまでの学習を振り返り、自分の考えの変容を自覚することができ、自己評価をする機会になる。

3. 「書く活動」「話す活動」を生かした指導過程の工夫

「書く活動」と「話す活動」が道徳科の授業の中で意図的・計画的に仕組まれ、それぞれの活動を充実させることにより、道徳科のねらいである、道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深めることにつながると考える。このような指導過程を基本とし、道徳科の授業を行うことによって、目指す子ども像「自己の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする子ども」に迫っていきたいと考える。

Ⅲ. 保護者や地域の人材(教材)を活用した指導

児童生徒に自他の生命を大切にするなど豊かな心をはぐくむためには、様々な人たちとのかわり合いの中で、多様な生き方・考え方を学ばせることが必要である。

そのためには、道徳科の授業において保護者や地域の方などを外部講師として招き、生き方や生命に関する貴重な経験など、主題や中心教材にかかわって話をしてもらい、質問を受けてもらうなどの指導の工夫が求められる。

参考（令和2年度までの実践より）

1. 学習指導過程への位置付け

保護者や地域の方などの支援による指導を充実させるためには、次の視点で学習指導過程を工夫することが大切である。

導入

・導入において保護者や地域の方をお願いする話の内容などについては、主題について児童生徒が興味や関心をもったり、課題意識を高めるよう配慮することが大切である。

展開

- ・保護者や地域の方の語りや説話を、展開における中心教材として位置づける場合は、児童生徒たちの話し合いが深まるよう、保護者や地域の方などから問いかけを入れていただくことが効果的である。
- ・保護者や地域の方の講話などを、補助的な教材として位置づける場合は、主題にかかわる事柄を補足したり意味付けをすることもできる。話し合いを深めるためには、保護者や地域の方が直接、児童生徒たちの討議に参加することも考えられる。

終末

・児童生徒に寄せる保護者や地域の方の愛情は、児童生徒の心に響き感動的な話としていつもまでも心に残る。終末における保護者や地域の方の説話などを、1時間のまとめとして活用したり、今後の発展につなげることが大切である。

2. 保護者や地域の方を迎えるための配慮事項

保護者や地域の方の支援を得るにあたって次のことに配慮することが必要である。

道徳授業の特質

・保護者や地域の方を招いた授業を授業改善の一つととらえ、道徳科の特質を押さえ、有意義なものとなるように工夫する。

事前打ち合わせ

・保護者や地域の方から協力をいただく目的、授業のねらいと参加していただく形態などについて、事前に打ち合わせをしておくことが大切である。

あいさつやお礼

・保護者や地域の方に対する接し方やあいさつ、授業後のお礼の手紙など、児童生徒に対するきめ細やかな指導が必要である。

3. 道徳授業の発信と双方向の取組

児童生徒の豊かな心をはぐくむことは、1時間の授業のみで完結することはあり得ない。また、学校における指導のみで十分ではないことも言うまでもない。学校と家庭が同じ方向を向き、子どもの豊かな心を育てる思いを共有しながら道徳教育を推進することによって、初めて成果が表れるものとする。

そのためには、学校で行っている道徳授業に関わる積極的な情報の発信と、教師と保護者双方の取組の推進が求められる。

第 3 章

令和 5 年度 授業実践

道徳科学習指導案

日 時 令和5年10月18日(水) 5校時
 児 童 滝川市立東小学校 3年2組 26名
 指導者 教諭 小松 連史

1. 主題名「友達とよりよい関係を築くには」 3学年 B—友情、信頼

2. ねらいと教材

(ねらい) しゅんのしたことを通して、友達について考え、友達とよりよい関係を築こうとする心情を育てる。

(教材名) たつきゅうは4人まで

3. 主題設定の理由

(1) 児童の実態 (児童観)

項 目			ア	イ	ウ	エ
A	1	正しいと思うことは、勇気を持って実行している。	9	13	2	1
	2	まちがったことは、すなおになおしている。	6	17	3	0
B	6	思いやりの気持ちを考えながら、親切に人と接している	8	16	2	0
	8	あいさつをしっかりと、れいぎ正しく接している。	11	14	1	0
	9	友達のことをわかろうとして、助け合っている	12	11	3	0
	10	自分の考えを相手に伝え、違う意見も大切にしている	11	11	4	0
C	12	だれに対しても同じ気持ちで接している。	10	10	6	0

ア～いつもしている、そのとおりだ イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ

ウ～あまりしていない、あまりそうではない エ～全然していない、全然そうではない

思いやりがあり、優しい気持ちを持つ児童が多い。しかし、中学年になり少しずつ特定の仲がよい友達と固まる様子も増えてきた。実際に集団の中で上手に関わることができず、トラブルになったこともあった。自分の利害だけで物事を判断せずに、友達のよさに目を向けることや相手の気持ちを考え、よりよい関係を築くことの大切さを自覚させたい。

(2) ねらいとする道徳的価値について (授業者の価値観)

「友情、信頼」は、「友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつこと」に関する内容項目である。児童にとって友達は不可欠な存在であり、友達との関わりの中で様々なことを学んでいく。そして活動範囲の広がりとともに、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。その一方で、気の合う仲間だけで自分たちの世界を構築することや、自分の利害を優先することで、友達とトラブルになることもある。

学習指導要領上での中学年における内容項目は、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」とされており、そのためには、友達のよさを発見することで友達のことを理解したり、友達とのより

よい関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで大切さを実感したりすることができるように指導することが大切であるとされている。相手を思いやり大切にしようとする心や、相手の良さを見つける大切さに気付かせたい。

(3) 教材について (教材観)

主人公のしゅんが、ひろし・さとし・あきらを誘って、4人で卓球をしに遊びに行く話題で盛り上がっていると、その話を聞いたとおるが「仲間に入れてくれないか。」と言ってきた。しかし、しゅんは「ダブルスの試合をするから卓球は4人までだ。」と断る。しゅんはその後、とおるのことが気になって謝るが、とおるは「卓球は4人までなんだろ。」と言って帰ってしまう。結局、4人で卓球をするが、しゅんはあまり楽しくなかった。そこで4人で話し合い、とおるに謝りにいくというものである

本教材は、自分の利害関係のみにとらわれてとおるを傷つけてしまった行動を通して、友達とのよりよい関係の在り方を考えさせることが可能である。しゅんが悪いことをしたから「ごめんね。」

「仲間になろう。」とどのように謝るかを考えるだけではなく、自分の利害を優先させたい気持ちと友達との関係を見つめ、友達とのよりよい関係について議論し考えることができる教材である。

4. 本時の展開

段階	主な発問 (○土台、●問い返し、◎中心)	予想される児童の発言・思考	教師のかかわり ◆評価、教師の手立て
導入 7分	1、4人でしかできないものや活動を揭示する。 2、本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。 ○よい関係とは？ (一斉) ○友達とのよりよい関係について考えましょう。	・やさしくすること。 ・一緒に遊ぶ ・楽しくする。 ・仲間外れにしない	・仲良くしている写真からよい関係について考え、友情や信頼について意識させる。 ・児童の発言からめあてを決定する。
展開前半 20分	3、場面把握をする。 (本時は事前読みとする) しゅんが友達を誘う場面、ともやのことを断る場面を確認する。 ・しゅんが友達を誘った時の気持ちを確認する。 4、授業中にときどき、とおるをみていたしゅんの気持ちを考える。 (個人⇒一斉)	・とおるにわるいことをしちゃったかな？ ・とおるにあそぼうって言ったほうがいいかな。	ICTを活用し、場面の写真だけを見せて場面を把握する。 ・しゅんの気持ちを考え、子どもの発言をカテゴリーに分けて、様々な心情があることを確認できるようにす

展開前半 20分	5、しゅんととおるの現在の関係を考える。 ○しゅんととおるは今どんな関係ですか？ 6、しゅんの立場でどうすればよかったかを考える。 ◎どうすれば、今の関係（気まずい、よくない関係）にならなかったかな？ 【●4人で遊びたかったのにいいの？】 【●あまり仲良くないけど？】 （個人⇒一斉） ●仲間に入れるしか方法はないですね？ （やさしく断る。理由を説明して相手に伝わるように断る。などの発言があれば、実際にロールプレイングで全体共有を行う。） （個人・ペア⇒一斉） 【●断ったから気まずい関係になったのではないですか？】	・いや、しかたがないよ。 ・気まずい関係 ・仲良くない ・あまりよくない関係 ・仲間外れにしなければ良かった。 ・一緒に遊べばよかった。 ●卓球が上手だから教えてもらえばいい。 ●それでも仲良くなるかもしれないし、良いところがあるかも。 ・断るときの言葉を丁寧にする。 ・自分の思いを伝えて、よい関係でいられるように断る。	る。 ※インタビュー型式で児童の考えを聞く。仲間に入れる場合、最初に確認した友だちを誘った時の心情を使い、問い返し、友達の良さや仲間に入れることでのよさも児童から出てきたら全体に共有する。 ●断ったら気まずくなるのではないかと問い返ししながら、よりよい関係を築くための気持ちや方法を児童に聞く。 ◆友達との関係を考えることを通して、自分との関わりで、友達とのよりよい関係をつくることについて考えようとしていたか。（発言、ワークシート）
展開後半 10分	5、立場を変えて考える。 ○ともやのように、仲間に入れてほしいと言う側、また断られる側はどんな気持ちが必要かな？ （個人⇒一斉）	・相手の思いも考えて、仲間に入れると伝える。 ・断られても、態度にだすのではなくて、また今度遊ぼうねと伝える。	断る側のよりよい関係だけではなく、誘う側や断られる側からよりよい関係を築くための気持ちについて考える。

道徳科学習指導案

日 時 令和5年 10月 19日(木) 5 校時

生 徒 滝川市立明苑中学校 2年 3組 34 名

授業者 岡田 侑也

1. 主題名「 人との関わりを考える 」 2学年 C(11)―公正・公平、社会正義

2. ねらいと教材

(ねらい) 規則違反を申し出た行為を通して正義を貫くことの素晴らしさを知り、正義を重んじようとする心情を育てる

(教材名)「名誉の失格」(心をつないで 教育出版)

3. 主題設定の理由

(1) 生徒の実態(生徒観)

本授業を行うにあたり、ねらいとする価値に対する児童の実態を把握するため、道徳性に関するアンケート調査を実施した。本時に関連する項目の結果は次の通りである。

項 目			ア	イ	ウ	エ
A	I	自分の考えを大切にし、責任をもって行動している。	46.5	46.5	7.1	0
C	10	学校や社会のルールを守り、自分のすべきことを果たしている。	54.3	37.0	8.7	0
	11	誰に対しても公平に接している。	51.2	40.9	5.5	2.4
D	22	自分の弱さを乗り越え、目標に向かっていくことは素晴らしいことだと思う。	78.0	18.1	2.4	1.6

ア～いつもしている、そのとおりだ。

イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ。

ウ～あまりしていない、あまりそうではない。 エ～全然していない、全然そうではない。

クラス替えをしてから半年が経過し、学校生活には十分慣れてきているが、2年生の後期は、大きな学校行事が終わり、目標を見失い、中だるみに陥りやすい時期ともいわれている。そうした慣れの中で、周囲で不公正があっても、多数の意見に同調したり傍観したりするだけで、制止することができないことも出てきている。

自分の弱さに向き合い、同調圧力に流されないで必要に応じ自分の意志を強くもち、それを克服して、正義と公正を実現するために、周囲と力を合わせて努力することが大切であることを自覚させたい。

(2) ねらいとする道徳的価値について(授業者の価値観)

自己中心的な考え方から脱却して、公のことで自分のこととの関わりや社会の中における自分の立場に目を向け、社会をよりよくしていこうとする気持ちが大切になる。また、「見て見ぬふりをする」や、「避けて通る」という消極的な立場ではなく、不正を憎み、不正な言動を断固として否定するほどの、たくましい態度が育つように子どもたちに指導していきたい。

(3) 教材について(教材観)

- ① 苦手な水泳の選手をなんとか回避しようとしていた主人公が、心の葛藤を乗り越え、クラスのために選手として水泳大会に出場する「集団の役割と責任」を、まず生徒におさえさせたい。あれほどいやでたまらなかった水泳なのに、無我夢中でスタート台に立った主人公の気持ちをおさえる必要がある。

誰にでも、苦手なもの、不得意なことはある。しかしそこから逃げたいという思いに屈しなかった主人公の行動に着目させたい。

- ② さらに、規則違反を申し出るという「正義」についてしっかりとおさえさせたい。心の中の葛藤がありながらもごまかすことを選択しなかった場面。自ら参加し、なおかつ規則違反を申し出た主人公の苦しさに関心させたい。

自分さえだまっていれば、みんな見て見ぬふりをしてくれている。クラスの優勝やみんなの気持ち、泳ぎきった自分への満足感、すべてが「不正」への誘惑となる。しかし、主人公は狭い仲間意識や自己満足に惑わされることなく、自らの不正を申告し、正義を貫いた。

- ③ 主人公の言動と合わせ、タイトルでもある「名誉」という言葉についても十分話し合うことで、より高い「正義、公正・公平」という価値について生徒とともに考えることができる資料である。

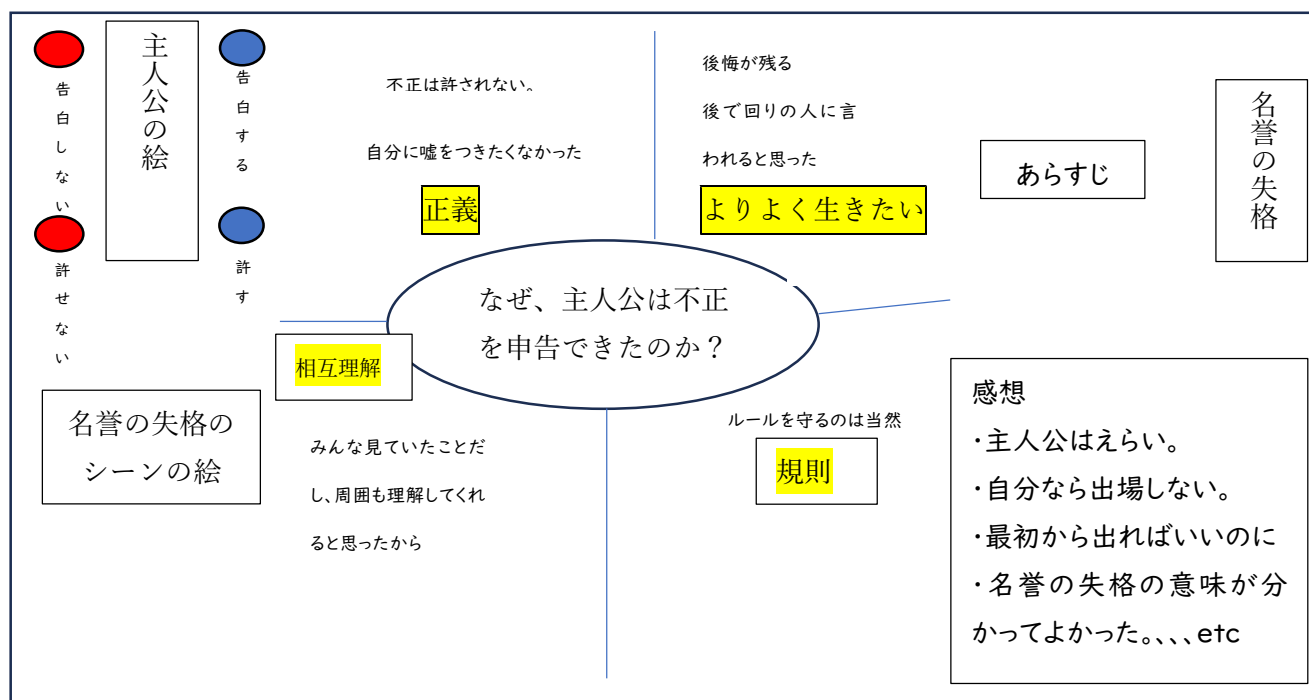
※主人公の行動が模範的に見えるが、主人公の道徳的価値が変化する場面をしっかりと分析することで、子供たちによりよく生きる喜びや、自分の考えをもって行動する大切さも指導していきたい。

4. 本時の展開（起承転結型）

段階	主な発問 (○土台、●問い返し、◎中心)	予想される児童(生徒)の発言・思考	教師のかかわり ◆評価、教師の手立て
導入 15分	1 ワークシート配布 2 あらすじの確認(ペア) 3 初発の感想を P4C 的手法で発表 →本時の問いを設定する。	① どうして最初はエントリーしなかったのに、急にエントリーしたのか考えたい。 ② 優勝してクラスが喜んでいる中で、どうして不正をわざわざ申告できたのかを考えたい。 ③ 名誉の失格です。の名誉って意味が分からなかったから考えたい。 ④ 主人公すごいと思った。 ⑤ 主人公最初から出てたらよかったのに、、、 ⑥ クラスメートはどういう気持ちだったのか？	◆朝読書などを活用して、事前読みを行わせて感想をつぶやき1に記入させておく。 ◆コミュニティボールを回す際の留意事項 ・渡す前に名前を呼ぶ ・全員が発表できるように全員の意見を聞く ・読み上げるのではなく、相手に伝えることを意識させる。
展開 前半 15分	4 生徒が設定した問いの解決に向けた話し合い つぶやき2の中心部分に自分の考えを記入する。 予想される生徒が考える問い (中心発問) 例① ◎不正を申告した時の主人公の気持ちはどういうものだったのか？ 例② ○不正を告白して失格になった時のクラスメートや周囲の気持ち(周囲が拍手をした理由) 例③ ○名誉の失格です。の名誉とはどういう意味か？	例① ・不正を黙っていても、みんなが見ているから後味が悪い気がした。(罪悪感) ・同情されたままいくのが嫌だった。 ・ルール違反は後味が悪い。 ・公正なルールで勝ちたい。 ・同情されていると思ったから。 例② ・偉いけど、言わなくても良くないか？ ・正直者だな～ ・偉い!(出場してくれてありがとう) 例③ ・不正をそのままにしないで告白した正直さを称える意味 ・クラスメートのことを信用し、自分の不正を正直に申し出た勇気に対しての称賛	◆生徒の声を大切に、考えさせるテーマを自己決定させる。 例①に 収束させたい。

	5 ペアで確認し参考になった意見などをつぶやき 2 の周辺部に記入する。 6 自分の意見やペアで確認した意見を発表させ、構造的な板書を作成して、意見を整理する。	板書計画を参照	◆価値項目や、賛成、反対などの意見を分類して構造的な板書にする。
展開後半 15 分	補助(深化)発問 教材を生かすために、水泳ではなく生徒たちにとって身近な陸上記録会の例を出す。 テイクオーバーゾーンをすぎてバトントスをした時に、告白できるかを問う。 7 自分だったらこの場面で不正を告白するかしないかを心の数直線を使って交流 青:告白する 赤:告白しない 8 自分が回りのクラスメートなら大塚の行動を許せるか許せないかを考える 青:許せる 赤:許せない 補助(一般化)発問 自分自身が正義を貫くためには、どういうことが必要になるか?	・クラスが盛り上がっている中だから、告白するならレースの直後にする。 ・自分のクラスが良ければいいから告白しない。 ・優勝が消えるのは、嫌だから許せない。 ・本当のことをするのは正しいことだから許せる。後味悪いから許せる。 ・まわりに流されない強さ ・正義を許す周りの雰囲気 ・自分が当事者になっていない時も正義を許す心。	◆発問の言葉がけに気を付けながら、少数意見や気持ちが中途半端になっている生徒の声を大切に行う。
終末 7 分	○振り返り記入(5分) 今日の授業で(正義)について考えたことや自分の生き方に生かせそうなことを書きましょう。 振り返りを一部の生徒に発表させる。(2分) ○ワークシートの回収	・正義の心を持ち続けることは難しいと思いました。周りのことを考えたり、自分のことを考えたりした中で、自分で選択しないといけないことがわかりました。ただ、そのままにすることだけはよくないと思いました。	

5. 板書計画



道徳の授業づくりシート【資料名】 名誉の失格

1.赤線を引きながら教材を読み込んだ。

2.この資料を通して手中学生に何を考えさせるか。(指導の狙いを明確化)

不正を見逃されて、同情された自分を許すことができず、正直に不正を告白したことの尊さ
恥をかきたくないとは最初は考えていた主人公が、なぜレースに急遽出ようと思いついたのか、
苦手なこと、恥をかきそうなことにも最初から準備をして挑戦することの大切さ
嘘や不正をそのままにしない正直さ(自分の正義を貫く強さ)
自分のまわりで起きたことでも、正義を貫くこと

3.この資料は、学習指導要領のどの項目を指導するのにふさわしいか。

公正、公平、社会正義
遵法精神
よりよく生きる喜び
相互理解

4.この教材の構成はどの型になっているか。

・起承転結型

5.どの登場人物の個々の変化や行動に着目するか

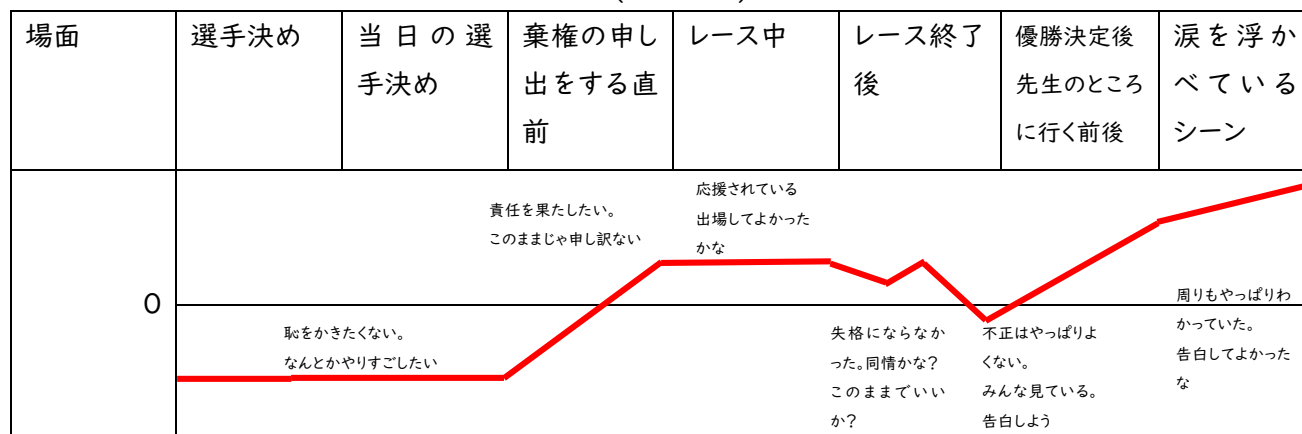
・主人公

6.大きな変化が起こった場面はどこか

・棄権するかと思いきや、主人公がレースに急遽エントリーした場面
・不正を告白する場面

7.注目している登場人物の心情や生き方の変化

・正義に関する主人公の価値項目の変化のグラフ(社会正義)



2年道徳 教材名 『名誉の失格』 月 日()

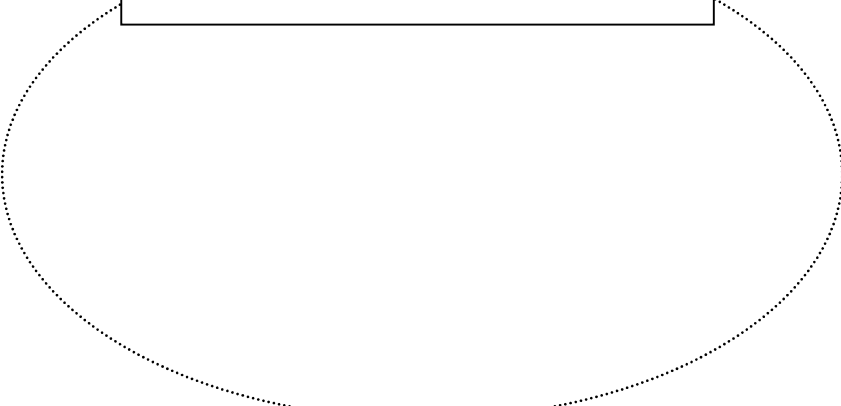
2年 組 番 氏名 ()

心のつぶやき (1)

--

心のつぶやき (2)

問



今回の授業を終えて

とても ⇨ ふつう ⇨ ぜんぜん

①教官や感動することがあったか	5	4	3	2	1
②深く考えることができたか	5	4	3	2	1
③自分のこれからの考え方に影響はあったか	5	4	3	2	1
④考えたことを大切にしていこうと思えたか	5	4	3	2	1
⑤教材は心に響いたか	5	4	3	2	1

今日の授業で()について考えたことや自分の生き方に生かせそうなことを書きましょう。

授業実践の反省～研究協議より～

主体的に思考することを促す発問について

小松連史教諭

○子どもを揺さぶる発問ができていて、そういった発問によって、こどもはがより考えを深めていく様子が良いなと感じました。

○様々な発問によって、どうしたらより仲良くできたのかという部分を考えられていたのではないかと思います。

○本時のねらいとなる「よりよい関係」という言葉はやはり少し難しいのかと感じました。代案を出せず、反省です。

○「良い関係って？」→どうすれば良い関係になるのか確認できていた。

○「良い関係をつくるには、遊ぶしかない？」

「断っても良い関係がつかれる？」

「しゅんはどうすれば良かった？」→児童をゆさぶる、思考を働かせることができていた。

○教材に対して、様々な視点からのアプローチが良かった。個人的には最後、時間がなく交流できなかったしゅんでも、ともやでもない、多数の人たち視点での考えを聞いてみたかった。

○子ども達の考えが変容するような、補助質問がたくさん用意されていたように思う。

○発問に対してよく考えて積極的に話している子どもが多く見られ、主体的な学習姿勢が感じられました。ただ、「しゅんととおるはどのような関係か」等の発問にある「関係」という言葉は子どもには難しいように感じました。良い関係、悪い関係など、3年生には聞き慣れた言葉でしか言い表せないのも、自分がイメージした「関係」についてうまく表現できず、答えに困っていたように見えました。

○序盤での「仲良くってどういうこと？」→「みんないい？」児童の発言を拾って全体で確認するのは、中学校でも有効だと感じた。

○よりよい関係という問いは、「お互いに」という視点をもたらす上では良かったと感じました。ただ、素材研究が十分にできなかったことは、申し訳なく思います。また、子どもたちとも深掘りしたいテーマだったと思います。

○導入の遠足の写真が、課題を考えるのに非常に効果的だった。

○子どもの声をよく拾い、中心発問へとつなげていた。

子どもによる自己評価と教師による評価（見取り）について

- 自分の意見をしっかり持って、ワークシートを書き、全員が発表できているのが本当に素晴らしいなと思いました。
- 道徳の評価、難しいです。今回はどのような点に注意しながら評価をしてのかを教えてくださいたいです。
- ワークシートでは見とれない評価、難しいですね。
- 必ず自分の考えを交流させていた。アウトプットが多い授業で、児童が学び合う姿、方法を学ばせていただきました。
- やはりかなり内容が詰まっていたので、子どもの考えを書いて表出する時間は多くなかった。ただし、話をする中で子どもの思考は深まっていったとは考える。
- 今回は事前読みでの学習であった。反省の中でも出ていたが、さらに内容が過密になるため、普段からどのように行っていくのかむずかしい課題であると感じた。
- 教師による評価の方法・タイミングはよいと思います。どのような発言・記述があればよいか等の具体を指導者が持っていればよいと思います。
- 子どもの自己評価の項目はどのような内容だったのか資料があれば良かったです。
- 意見を反映させるワークシートの構造ではあったが、子どもたちの納得解を得るまでに時間がかかってしまったのは反省でした。
- 子どもが自己評価しやすい授業展開、ワークシートだった。
- 教師による見取りも適切に行っていた。

授業展開、教師の手立て等について

- 言葉の意味などを随時確認しながら、進めていたことで、さらに学びが深まっていたように感じました。
- 問い返しが的確でした。
- 指導案検討の時に案を伝えられたら良かったのですが・・・
「自分だったら？」という問い返しがあってもいいのではなかったと思います。
自分の授業でも「自分だったら？」を大切にしていきたいと常々思っています
が・・・
- 児童の思考がわかる板書になっていて見やすかったです。
- 講演の中であった人間理解と価値理解の部分で、上手く展開していったのではないかと感じた。

- しゅんととおるのそれぞれの気持ちに触れさせる多角的な見方を促す発問により、より深く場の状況が把握でき、どうしたらよかったかを多面的に捉えられたのではないかと感じました。
- 授業で使ったワークシートを指導案に添付されていたらよかったと思いました。
- 児童がプリントに記入している際、小松先生は終始、口を挟まなっていたので、集中できる環境がつくられていてよかった。
- ロールプレイングを用いていたと思うが、その入りが分かりにくかったです。(単に私が聞き逃していただけかもしれません。) 代表児童が行ったのを全体で一斉に見てもよかったのではないかと？
- 展開の中で、板書の構造を工夫して多面的な部分を引き出す意図は感じましたが、収束させる方向性を素材研究で見出せなかったことや、学習指導要領に書かれる価値理解が足りなかったのは、講演を聴いて反省しました。
- 滝川市で共通した道徳の授業を今後確立するためにも、山田先生の講演を参考に授業作りの基準を明確にして、共通言語を用いて全校で同じ歩調で進めていく必要があると思いました。
- 「価値理解」と「人間理解」を取り入れた、素晴らしい授業でした。
- 経験したことのないような大人数が参観の授業、普段の教室ではなく慣れない場所での授業でも子どもたちは積極的に授業に参加し、よく考え、意見を伝えていました。

授業実践の反省～研究協議より～

主体的に思考することを促す発問について

岡田侑也教諭

- 補助（深化）発問の陸上大会の例での、自分だったらどうするかという問いが、生徒の中にしっかり自分事として捉えることができている、現実的な意見がたくさん出てきて、とてもおもしろかったです。
- クラスメイトだったら、という視点だけでなく、他の関係ないクラスだったらどうかなど、様々な視点から考えを深めさせていて、たくさんの意見が出てきていて良いなと感じました。
- P4Cで出た意見から「(主人公が)いい人だという印象」だねという問い返しはさすがです。その後のゆさぶりにつながる問い返しだと思いました。
- 「不正を申告したときの主人公の気持ちは？」→コミュニティーボールを使って、生徒全員の考えを聞いていた。（話すのではなく、相手に伝えるように）
- 生徒が設定した問い（なぜ出場したのか）について考えを深めることができていた。
- 小松先生の授業と同様に、自分・クラスメイト・学年の友人など、様々な立場から資料を読み取り、児童に立場を変えて考えさせることができていた。
- 展開後半の「何という心を持っていたか」という発問は、一気に核心に触れるものであった。（授業者は展開の中での発言を望んでいたのかもしれないが・・・）
- どの発問もよく練られていると感じました。指導者が生徒の反応を待ったり言葉を拾ったりと、思考の流れに寄り添った学習展開になっていました。
- 心の数直線に取り組ませる際、テンポ良く進むあまり、発問の内容の理解が不十分なまま取り組んでいる生徒が見られました（「どういう意味？」などのつぶやき）。板書の工夫や発問の厳選により、生徒がよりじっくりと考えを巡らせることができたかもしれません。
- コミュニティーボールは席順に回した方が、いらぬ気持ち（次はだれに渡そう、何で自分の順番を飛ばされたのだろう など）を抱かないのでは？と感じました。これは学びに向かう気持ちにも影響してしまうのでは？
- 数直線を用いて自己表現する際、「告白しないの方が多い人」と発問されていましたが、具体的な数値（40以上など）を示すと良いのかなと感じました。

○緊張するような雰囲気の中、ペアやP4C方式を使って、全員が感想や意見を伝えやすくなっていた。ただ、はじめは男子スタートだったので、男子の感想ばかりが続いてしまった。

○生徒の問いを上手に拾い、中心発言を作り上げていた。

○陸上記録会を例にしたのは、自分たちにも起こりうる、リアリティーが生まれたと思ったが…

子どもによる自己評価と教師による評価（見取り）について

○自分の意見をしっかり持って、ワークシートを書き進められているように感じました。ワークシートを書く時間、グループで確認する時間、全体で交流する時間等も生徒の様子を見ながら適切な時間が取れているように見えました。

○コミュニティーボールを使うことで、生徒が意欲的に発表できる、他者の意見を尊重できる環境づくりができていたと感じました。

○今回は事前読みでの学習であった。反省の中でも出ていたが、さらに内容が過密になるため、普段からどのように行っていくのかむずかしい課題であると感じた。

○ワークシートの活用により、本時の自分の思考の流れを振り返ることができるので、下段にある自己評価（「今回の授業を終えて」）をより正確に行う事ができたのではないかと思います。

○全員が参加し、自分の意見を考える指導過程のため、生徒も自己評価しやすいと感じた。ワークシートもシンプルで適切だったと思う。

○教師による見取りもしっかりなされていた。

授業展開、教師の手立て等について

○自分の思ったことを、恥ずかしがらずにどんどん言える環境作りが素敵だと思いました。

○小学生だと特に感じるのですが、本文の丁寧な読み取りの大切さを改めて感じました。

○ICTを使って物語の流れをすぐ確認できるようになっていてとても良かったと思いました。

○多角的（いろいろな立場）に考えさせる授業の流れになっていました。

- 導入の部分から展開前半までのつながりが上手くいっていないように感じた。中心発問がいくつかのパターンで示されていたが、やはり落とし込む発問を決めて授業進めるのが必要かと感じた。
- 授業2人の構造的な板書がすばらしいとおもった。
- 心の数直線の活用により、他者の考え方やその度合いなどを容易につかむことができたので、互いの意見に興味を持って聞こうとしていたように思いました。
- 生徒が個人でも全体でも考える時間が十分確保されていてよかった。
- 教科書の挿絵を切り抜き提示されていたのが、とてもいいアイデアだと感じました。
- 端的な言葉で板書されていて、生徒にもわかりやすかったと思います。
- あらすじを常時見えるようになっていたのは、とても参考になりました。
- 黒板が古いため字が書きにくく、磁石も使えない中、工夫された板書やPPが見られました。
- 「心の数直線」は、0か10かで判断しないので、道徳以外でも使えるアイテムだと思った。

第4章

成果と課題

1 研究内容について

（１）道徳科授業の質の向上～『主体的・協働的』な学習の姿を明らかにする発問～

①児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問について

成果	○どちらの授業も導入段階において、興味関心が高まる工夫をされていた。 ○道徳的価値にせまるためには問い返しが必要であると授業を通して再確認することができた。主発問の大切さも再確認できた。 ○問い返しを重視することで、児童を揺さぶることができ、考えを深めることができたのではないかと思った。 ○山田先生の話にあった絶対解と納得解の話から、必ずしも価値項目に迫るだけではなく、児童の思考が価値項目に近づいていくような、納得解を求めるようになれば良いとわかった。 ○教材文のような出来事が、自分の生活の中でも重なる点があることを想起させる問いかけや手立てを講じたことにより、子どもが自分事として捉えて考える様子が見られた。（遠足の写真の提示や陸上記録会を例に考えさせた点） ○小学校と中学校の授業を見せていただいたことで、主体的に学んでいくための仕掛けづくりに触れることができました。特に一人１発言を可能にするコミュニティボールの手法を知ることができ、今後の授業改善で活かしたいと思いました。 ○発問の重要性、教材理解の重要性に改めて気づくことができました。 ○基本発問を軸に、生徒自身で課題や考えたいことを考える仕組みをつくることができた。 ○自分事として意欲的に取り組む生徒が多かった。 ○導入などで学級の画像などを用いることで、自分ごととしてより捉えるきっかけになっていた。 ○特に生徒が設定した問いに解決に向けた話し合いがなされていた。 ○０（ゼロ）か１０かで答えさせない工夫が見られた。（心の数直線など）
課題	●実生活に活かしていくには、どうしたらよいのか。 ●子どもの発言を受け、どう切り返していくか、問い返していくかの重要性和難しさを感じた。質の高い授業の構築・授業改善が求められる。 ●今後もタイムマネジメントや教材理解について研究を進める必要があると思う。 ●素材研究や多くの補助発問を考えるなど準備段階、さらに事前読みをしたり、P4Cの手法をとったりするなどの１授業時間で、時間が足りない。 ●内容項目Dの範囲であれば、どのように納得解を求めていけるのか ●何について考えるのか全員が正しく把握できる工夫と、細かな問い返しの数や内容の吟味・検討が必要。 ●道徳的価値を自分事にするために、身近なものと結び付けさせる学習をどの教科でも行う必要性を感じました。 ●授業者の問いかけや生徒たちに意欲付けをさせるのが難しかった。 ●生徒の中に、道徳嫌いがいるとやりづらい。 ●小中連携も必要になってくると考える。 ●主体的に思考する生徒とできない生徒をどうするか。

- 導入段階の興味や関心を高める工夫
- 教材理解の重要性、主発問の大切さを確認できた。
- 問い返しを重視→児童をゆさぶり、考えを深めることができた。
- 児童の思考が価値項目に近づくような納得解を求めることが大切であることを学んだ。
- 主体的に思考するための仕掛け
 - 子どもが自分事として捉えて考えることができるような問いかけや手立てを行った。
 - コミュニティボールの手法
 - 生徒が設定した問いの解決に向けた話し合い
 - 0（ゼロ）か10かで答えさせない工夫（心の数直線）
- 実生活に活かしていくことのできる授業づくり
- 子どもの発言への切り返し、問い返しの重要性と難しさ
- タイムマネジメント（1授業時間、授業前の準備も含む）の時間が足りない
 - 教材理解についての研究
 - 素材研究、補助発問の準備、事前読み、P4C的手法など
- 内容項目D（主として生命や自然、崇高な物との関わり）での納得解
- 全員が考える方向性を把握できる工夫、問い返しの数や内容の吟味・検討
- 自分事として捉えていくために、他教科でも身近なものと結びつけさせる学習の必要性がある。
- 生徒たちへの意欲付け、生徒の道德嫌い、主体的な思考ができる生徒、できない生徒への対応
- 小中連携の必要性

（２）道徳科における評価の在り方

①児童生徒による自己評価と教師による評価について

成果	○教師の効果的な問い返しによって、子どもの思考が深まっていたように感じました。 ○ワークシートの有効性 ○振り返りを行うことで、児童の自己評価や自分の考えの変化を感じることができていたと思う。 ○児童が道徳的諸価値を見いだすことで、その思考自体が評価に直結することが学べた。そのために教師は、素材研究を欠かすことなく行うべきであることがわかった。 ○ワークシートや心の数直線などの活用により、子どもの自己評価も指導者側の見取りもより正確に行うことができた。 ○心の数直線を用いることで生徒の心の変容を可視化でき、ワークシートに記録をしておけば、評価をする際にも有効だと感じました。 ○振り返りの記述だけでは読み取れない部分があったが、心の数直線を使うことによって発言が苦手な生徒や少数派の意見を拾うことができた。 ○数字と文字の振り返りのおかげで授業者は自分の授業の評価を行うことができた。 ○発言やワークシートなどで評価の見取りが適切になされていた。 ○評価を意識した指導計画になっていた。
----	---

課題	●自分の心がどう変化しているのかわかるような工夫を日々試していきたい。 ●ワークシートにうまく書けない子（思いはあっても文章にすることが苦手な子）の見取り方交流やつぶやきをどう拾うか ●継続的に記録を取らなければ児童が自分の変化に気付けないので、続けていくことが大切だと思う。 ●今年度の研修の中では、振り返りに着目にして、進めてきていたように思う。振り返りが評価のポイントであると思っていたが、研修の中で授業内の児童の考えの変容を見取るべきではないかと考えた。どの部分をどのような手段で見取っていく必要があるか深めていきたい。 ●子ども自身が自分の考えの変容を実感できる導入と終末の活動をしっかりと位置づける必要がある。 ●生徒の変容をどのように見取ったらよいか、毎度悩みます。授業での姿やワークシートの蓄積から、生徒の変容をどう掴めばよいのか難しく感じます。学校全体で共通した方法で行えるといいとも感じます。 ●授業の進め方によって生徒の振り返りも変わってしまうので、まずは授業の確立が優先されると思う。 ●今年度は、フォームで生徒に自己評価をしてもらって、そこに簡単な教師の評価を付け加える形で考えているが妥当か不明である。
	○振り返り→児童の自己評価や自分の考えの変化につながった。 ○児童が道徳的諸価値を見いだすことで、その思考自体が評価に直結することが学べた。 ○心の数直線・ワークシート～子どもの自己評価や指導者側の見取りができる。 生徒の心の変容を可視化できる。 ワークシートに記録しておけば、評価をする際にも有効。 発言が苦手な生徒や少数派の意見を拾うことができた。 自分の授業の評価にもつながった。 ○評価を意識した指導計画になっていた。 ●ワークシートを書けない児童生徒の評価 ●児童・生徒の考えの変容について→自分の心がどう変化しているのかわかるような工夫。 - 児童が自分の変容に気づくための継続的な記録 - 授業内の考えの変容を見取るべきではないかと考えた - どの部分をどのような手段で見取るか - 学校全体で共通した手法を行うことについて ●授業の進め方によって生徒の振り返りも変わるので、授業の確立が優先。 ●フォームでの自己評価、教師の評価の付加への妥当性

(3) 保護者や地域の人材(教材)を活用した指導

成果	○コロナが落ち着いて、外部の方に授業、講演会ができて良かった。 ○外部の方を招いての実践で、実践例等を交流することによっていろいろな視点から学びを深めることができたと思う。 ○情報提供ただけて有難かったです。 ○生徒会とタッグを組んで、いじめ撲滅集会を道德のコマでおとした。 ○小中連携の観点もあって良かった。(相互理解) ○情報モラル教室を他団体に依頼した。(遵法精神) ○油断はできないがコロナも明け、外部からの講師派遣もなされるようになってきた。
課題	●地域を活かしたものも見てみたい。 ●どの内容項目でどのような方を呼ぶことができるのかが わからない。 一から調べる手間を考えると手が出にくい。また、呼ぶことが目的となってしまうので、道德のどの場面で有効に活用できるかが難しいと感じる。 ●人材の確保が難しいのではないかと感じた。 ●今回の研修の中では、あまり触れることがなかったように思う。 ●活用できるといいのですが、なかなか地域の方々と連携したり地域教材を活用したりするのが進んでいないのが現状です。 ●保護者を生かすことはできなかったが、保健所や地域の商工会などに協力してもらって、生命の授業や勤労の授業をしてもらうことはできると考える。 ●計画的に行っていけるかどうか。
○外部の方を招いての実践で、実践例等交流できた。 ○いじめ撲滅集会の実践 ○他団体に依頼しての、情報モラル教室の開催 ●地域の人材(教材)の情報の不足、人材確保の難しさ ●道德の内容項目や場面によって有効に活用していくことの難しさ ●保護者の活用はできていないが、保健所(生命)や商工会(勤労)の協力は期待できる。	

2 研究推進体制・方法等について

(研究会議、実践発表・「研究のまとめ」発刊による研究成果の還流・発信等)

成果	○集合だけでなく、オンラインも活用しながら話し合いができていた。 たくさんの方に参観していただけた。 ○今年度は市内に公開するということもあり、今までよりは指導案検討に関わることができた。 また、プレ研を行うことができたのも良かった。 ○リモート会議だけではなく、指導案検討の際は実際に集まって話し合いをすることで、授業をしてくださった先生の熱量などを感じることができて良かったと思う。 ○皆さんお忙しい中、集まって対面の中で、話し合いを行うことができて良かった。自分は今年度、異動してきて流れがわかっていない部分もあったので、内容が引き継がれていくと、話し合いの中でも参加する姿勢的にもなお良いと感じた。 ○文字媒体では伝わらないものを、山田先生の授業を参観してもらうことで数多くの意見をいただくことができた。 ○山田先生をお招きすることで、少しずつ全体で目指す指標はできたのかと思う。その中で滝川独自の色を入れていければいい。 ○今回委員会の方で多くの先生方で山田貞二先生の授業を見ることができてよかったと思う。 今後も続けていただいたなかで、推進委員として動けていければと思う。 ○指導案検討や授業を公開してくださった2名の先生方の授業を通して、みなさん忙しい ○外部から人を呼ぶことは滝川市として、道徳を考えるきっかけになったと思う。 ○今年行った研修会・講演会は 好評であった。い中、時間のやりくりをし会議での指導案検討や討議ができてよかった。
課題	●しょうがないのかもしれませんが、授業者さんの負担が多すぎるように感じる。 ●授業者まかせにならないよう、もう少し早い時期に指導案検討などができると良い。 ●研究の成果がどこまで市内の中で環流されているのか、疑問に思う。講演会は大変参考になったが、今回の研究会でも師範授業を見た先生方は多くない。2月の発表会では？せっかく時間を取り、指導案検討から反省まで行っているのに、市内中に伝えた方がよいのではないかな。 ●推進教員が毎年変わることに。 ●こうした公開授業を行うと、どうしても授業者の先生方に大きな負担がかかってしまうと感じます。皆さん多忙な中、会議の日程調整等大変だったと思います。会議の設定どうもありがとうございました。会議の中でも話題に上りましたが、プレ授業は推進委員が参集できると良いと思いました。 ●他校へ出前授業や小中連携をしてネットワークを作っていないと継続していかないこと。 ●市内研修会を今年度同様に行うのであれば参加人数を分散させる工夫が必要か。公開授業といえどもあまりにも授業教室や授業の環境が良くない。例えば、次年度は小学校2校の公開、翌年度は中学校2校の公開とし基本、小学校教師は小学校の参観、中学校教師は中学校の参観にするなどにはどうか。

- オンライン（リモート会議）だけでなく、対面で指導案検討ができたことが良かった。
- プレ研を行えたことは良かった。
- 市内で公開したことにより、多くの先生に見てもらうことができ、指導案検討にも関わられた。
- 山田先生の授業を多くの先生方が参観し、意見をもらうことで全体で目指すべき指標ができた。滝川独自の色を入れていくと良い。
- 山田先生を呼ぶことで、滝川市として道徳を考えられた。
- 授業者の負担が大きい。指導案検討を早期から行うと良い。
- 研究の成果が市内でどこまで環流されているのか疑問がある。2月の発表会のあり方。
- プレ授業は推進委員が参集できた方が良い。
- 他校への出前授業や小中連携を行うことによるネットワークの構築
- 市内研修会における参加人数を分散させる工夫

3 その他

各学校における道徳教育の充実に関わって

（「道徳科」の日常実践の充実、家庭や地域との連携、授業公開等など）

- ・特にこれといったことをできていないです。教科書を中心に実践し、ワークシートを活用しながら進めています。
- ・なるべく自分事として捉えさせ、ワークシートを活用しながら自分の考えを表現できるようにしている。
- ・研修会当番校でない中で、なかなか推進をすることができなかった。校内研で、自分は道徳を行ったりもしたが、先生方の意識が変わるほどのものではなかった。今年度、異動してきたこともあり、どのように進めていけばいいかも難しいところであった。
- ・会議の場で、授業データの交流（データベース化）および、評価の方法の交流、ローテーションのやり方などを交流したい。滝川市として、授業のデータベース化をしていくことが大切だと思う。
- ・コスモスデーを活用し、道徳授業を公開することができた。今後も通信や懇談会、PTA 活動等を通して家庭や地域との連携を深めていきたい。
- ・滝川市で統一した動きや教材理解を図ると人が変わっても継続して研究に取り組めると思う。
- ・開西中学校では、12月に市の保健師さんに来校していただき、「いのちと性の話」について講演してもらった。（生徒の感想も良好であった）

☆滝川市としての授業のデータベース化について

- ・研究員間のツールや資料の共有について、一人一人の優れた実践や資料・動画等を共有していきたい。

☆家庭や地域との連携について

- ・通信や懇談会、PTA活動を通して連携を深めていくことが必要。
- ・地域人材の有効な活用について情報交流をしていく。

☆滝川市としての研究の継続性について

- ・推進委員が変わっても継続して研究推進できるよう、統一した考えを共有、実践していく。

《参考・引用文献》

- ・ 小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- ・ 小学校学習指導要領 解説―特別の教科 道徳― 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領 解説―特別の教科 道徳― 文部科学省
- ・ 平成27年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成28年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成29年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成30・31年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 令和2年度 小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 令和3年度 小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 「特別の教科 道徳」の充実に向けて 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 「特別の教科 道徳」の評価について 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 新学習指導要領を踏まえた道徳キーワード 光村図書出版株式会社
- ・ 道徳科「深い学び」のための内容項目ハンドブック 日本文教出版
- ・ とうとくのひろば 日本文教出版
- ・ 平成22年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成23年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成24年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成25年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成26年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成27年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成28年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成29年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成30年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 令和 元年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 令和 2年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 令和 3年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 令和 4年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会



滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

令和5年度 滝川市道徳教育推進事業 実践報告書

「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」 ～主体的・協働的な学習を通して～

発 行 令和6年3月
 発行者 滝川市教育委員会・滝川市道徳教育研究会議
 所在地 〒073-8686 滝川市大町1丁目2番15号
 滝川市教育委員会 教育総務課
 TEL 0125-28-8042 FAX 0125-24-1024